

「祖父と父の意思を継承」

一般財団法人小笠原アカデミー教育振興財団
理事長　小笠原　勇人

小笠原アカデミー教育振興財団三代目の理事長就任にあたり、祖父「小笠原亀吉翁」の〝意思〟を尊重し、継続の義務を果たして行く使命を求められる事を痛感しております。

〝意思〟とは青少年の育英、地域社会・経済の発展を担う人づくりです。父・小笠原孝は事業を具現化するために、昭和五十五年の設立以後も、夫人(故、幸子)の遺産と自身の(持株)を寄贈し、基金として運営に当たっておりました。だからこそ、奨学金貸与制度や助成金交付を継続できており、今日があるものと心得ております。この先も財団は社会貢献と共に、青少年の育英に繋がるものと信じております。

「国づくりは人づくり」「人づくりは教育」と、教育再生への取り組が本格的に始まったのは、一九七〇年代の時の首相が、あるシンポジウムの演説で冒頭に紹介したものが、国づくりの基礎は人づくりであると発言したことであり、その後経営に於ける普遍的重要なテーマとして企業が取り組んだ「人材育成」であり、先人たちは「近代国家」日本をつくるために何が必要なのかと考えたのが「国づくりは人づくり」であった。とあります。祖父・亀吉や父も同じ思いの一人であって、人材育成に心血を注いだものと思われます。

時代の背景は異なりますが、今日を以っても私ども小笠原アカデミー教育振興財団の原点に変わりありません。

教育振興とは、共同性の育成であり、学びと働くことの一体性を推進するものです。当財団は当初からの奨学金の貸与を継続しつつ、教育委員会からの推薦に伴って、スポーツなどに於いては、全国大会出場の遠征費の助成金や各種研究大会開催の運営費への助成金贈呈を行っております。遠征前に贈呈式を行い、大会出場を讃え、エールを送って、活躍できるよう励ましております。

更には、道南の小中学校が司書配置に伴い、読書環境の充実を目的として、書籍・書架一式を寄贈しております。渡島教育局と函館市教育委員会が選定する学校(四校)に毎年寄贈するものです。

図書室への関心を高めて読書を楽しめるよう、特製の書架を添えています。また、書籍については、自主性を尊重し、児童・生徒が自ら選定できるやり方としております。読みたい書籍を選択することで、一層の関心と読書意欲につながるものと思います。学校の蔵書冊数達成率の改善と児童・生徒が図書室に足を運び、司書にやりがいがある職場になるよう、お役に立てればと念じております。

本年、三月十九日に逝去いたしました、父・小笠原孝が、二年前から楽しみにしておりました、設立四十五周年が来年になります。父は四十五周年を来年に控えて、いろんな思案を持って頑張っていただろうと思います。令和五年の「日刊政経」新年特集号には想いをよせていた。本年で設立四十二年経過いたしました。幾多の変遷を乗り越えて今日まで、運営を続けてこれたことに感無量を覚えます。行政・関係者の皆様のご支援に改めて感謝を申し上げる次第です。令和七年には、設立四十五周年・更に、その先には令和十二年に設立五十周年を迎えます。記念式典を挙行できるように、設立の主旨である青少年の育英に努めます。また、私自身も健康に留意し、元気で実施いたしたく期待に満ちております。と投稿しておりました。

私ども、役員一同・関係者の皆様と、今の時代に添った、基金の運用・事業の運営にあたり、地域社会への貢献をたゆまずに、推進して参る所存です。行政や関係者には一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、理事長就任のご挨拶といたします。

翔たけ

題字　小笠原　孝

第32号
令和6年11月1日
発行
一般財団法人
小笠原アカデミー
教育振興財団
理事長
小笠原　勇人

〈事務局〉
〒040-0061
函館市海岸町9-18
TEL 0138-84-5396
FAX 0138-84-5397



令和6年度　書籍・書架一式贈呈式　9月25日　深堀小学校に於いて



小笠原勇人理事長(右列奥)を囲んで感謝を表した贈呈式





＜小笠原勇人理事長より、各校代表に目録の贈呈を行った。＞

●中川清人(深堀小学校6年)が各学校を代表して、お礼の言葉として、「図書室にたくさんの本をいただき、とてもうれしいです。図書委員会でしっかり管理して、大事に読みます、」と心から感謝の気持ちを述べた。

局長・教育長・校長よりも、それぞれにお礼の言葉をいただいた。

☆☆☆　お礼のお手紙　☆☆☆

函館市立深堀小学校　図書委員長　川島古都

理事長　小笠原勇人様

この度は、わたしたち深堀小学校の児童のために146冊の本と書架を贈呈いただきありがとうございました。

深堀小学校の児童は、今回贈呈していただいた本の中に、歴史に関する本や図鑑、怖い話や絵本など様々な種類があり、みんな興味深く読んでいます。学習に関する本もあり、勉強に役立ちそうです。私は特に「5分後に世界のリアル」の本を読みたいと思ったので、さっそく借りて読んでいます。いただいた本については、図書委員会で大切に管理し、貸出しを行って、たくさんの児童に読んでもらいたいと思っています。

これからも本に親しみ、学校中に読書の輪が広がるような学校にしていきたいと思っています。

本当にありがとうございました。

★令和6年度　贈呈式出席者★

●函館市立深堀小学校	校長	小濱　誠
	児童会代表	中川清人
	教頭	保坂大樹
	図書担当教諭	中村文彦
	学校司書	前野久美子
●函館市立鱒川中学校	校長	阿蘇一貴
●北斗市立萩野小学校	校長	西館　純
	児童会会長	一戸椎菜
●木古内町立木古内中	校長	坂本　学
	生徒会会長	工藤大翔

教育委員会(贈呈校の推薦をいただく)

●函館市教育委員会	教育長	藤井壽夫
	八重樫	泉・林菊香子
●北海道教育庁渡島教育局	局長	山下幹雄
北斗市教育委員会	教育長	川原弘成
木古内教育委員会	教育長	藤澤義博

2015・平成27年にスタートし、8年間で
(下記の40校に)寄贈いたしました。

桔梗小学校	七重小学校	湯川中学校	浜分小学校
桔梗中学校	五稜郭中学校	本通中学校	大中山中学校
藤城小学校	巴中学校	浜分中学校	上湯川小学校
北美原小学校	青柳中学校	大沼岳陽学校	北日吉小学校
亀田中学校	久根別小学校	旭岡小学校	石別中学校
谷川小学校	峠下小学校	戸井学園	大沼岳陽鈴蘭谷
軍川小学校	港中学校	石別小学校	深堀小学校
日吉ヶ丘小学校	北中学校	七飯中学校	鱒川中学校
赤川中学校	萩野小学校	亀田小学校	萩野小学校②
上磯小学校	大中山小学校	戸倉中学校	木古内中学校

設立44周年　(新)13期・定時総会

＜令和6年7月19日＞函館新聞社ビル3階会議室に於いて



一般財団法人　小笠原アカデミー教育振興財団・役員
理事長　小笠原勇人

＜令和6年7月20日・現在＞

代表理事	小笠原　勇　人
理　事	小笠原　　弘
〃	野　又　　肇
〃	山　本　真　也
〃	平　野　利　明
〃	竹　内　行　雄
監　事	齊　藤　一　雄
〃	村　田　亮　二

事務局　竹内行雄・会計担当
平野利明・事業担当

評議員	小笠原　康　正
〃	齊　藤　良　昭
〃	近　野　　功
〃	庄　司　澄　枝
〃	羽根田　茂　信
〃	野　村　辰　男
〃	成　田　　豊
〃	野　口　博　敏
〃	中　村　昌　弘
〃	青　田　　基

令和6年度／助成金贈呈先・大会内容

第79回北海道国語教育研究会大会函館大会

開会式・全体会場　函館市立亀田小学校

令和6年10月11日・中学校会場　函館市立五稜郭中学校

函館大会運営委員長・高村幸子(函館市立亀田小学校長)

●研究主題

「実生活に生きて働く国語の力の育成」
～国語科年間指導計画の工夫・改善～

●主催

北海道国語教育連盟
函館市小学校国語教育研究会
函館市書写教育研究会
檜山管内小中学校国語教育研究会
函館市中学校国語教育研究会
函館市学校図書館研究会



第62回北海道中学校理科教育研究会函館大会

開会式・オリエンテーション

令和6年10月18日・函館深堀中学校に於いて

函館大会運営委員長・橋本智也(函館市立銭亀沢中学校長)

●大会主題

「学びの再構築を通して、自然との共生に向かう理科学習」
『学びの過程に着目し、資質・能力を系統的に育む理科学習』

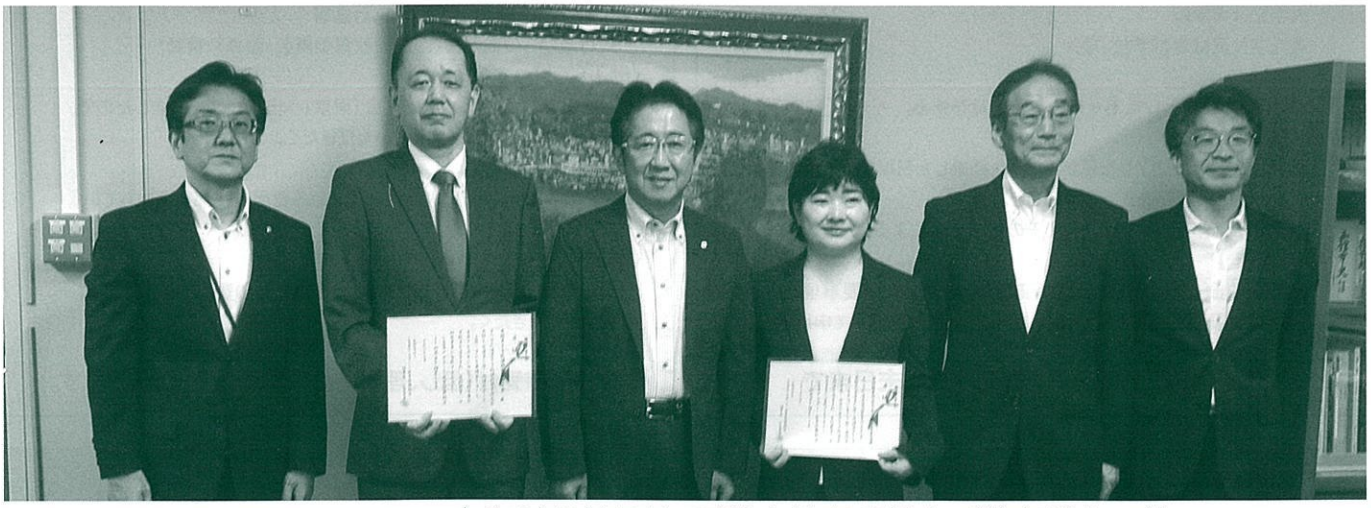
●主催

北海道中学校理科教育研究会
函館市中学校理科教育研究会

●公開授業

1年・身の回りの検査	桔梗中学校
2年・電気の世界	戸倉中学校
3年・化学変化とイオン	五稜郭中学校



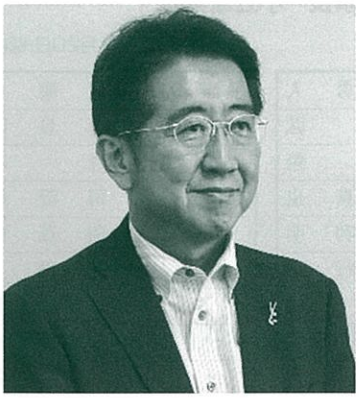


助成金贈呈式

令和6年9月13日・函館市教育委員会／教育長室に於いて

堤勝幸　学校教育部長・橋本智也　銭亀沢中学校校長・小笠原勇人　理事長・高村幸子　亀田小学校校長・藤井壽夫　教育長・佐藤大輔　学校教育課長

一般財団法人 小笠原アカデミー教育振興財団



奨学金貸与で学生に
励ましの言葉を話される
理事長　小笠原勇人

「昭和55年設立」株式会社テーオー小笠原（1950～2017）の創業者。故、小笠原亀吉翁の意思でもあった、青少年の育英「地域社会・経済の発展を担う人づくり」を具現化するために、小笠原亀吉翁の遺産の一部を基金として後継者が、「一般財団法人小笠原アカデミー奨学財団」を設立いたしました。初代理事長は（故、小笠原金悦）、次の二代目理事長には（故、小笠原孝・令和6年3月19日逝去）です。三代目として小笠原勇人が継承することとなりました。財団は今日までに数多くの学生に奨学金を貸与して参りました。利用された数多くの学生たちは、教育者の道や、社会の第一線で活躍されております。

その後、基金の増額として、小笠原孝夫人（故、小笠原幸子）の遺産の一部と、小笠原孝理事長個人の株式の寄贈等によって更なる充実を計りました。平成24年には一般財団法人小笠原アカデミー教育振興財団に名称を改め、功績者の二代目小笠原孝理事長は、新たに教育機関などへの助成金制度を加えて、次のような育英貢献事業に取り組みました。

優秀な成績をもって、北海道を代表・全国大会出場の遠征費用や、書籍・書架一式贈呈・学校の教育資材寄贈などです。三代目理事長として引き続き教育振興に努めて参ります。

令和６年度10月現在・奨学生総数204名となる　　助成金は41団体に贈呈／書籍・書架一式も40校となる

諸君の可能性を咲かせよう

向学心に燃える若人へ奨学金
奨学生の募集要項

【 資 格 】
- 原則として、道南地方の住民の子女であること。
- 大学又は大学院、専門学校又は専修学校、高等学校に在学する者。
- 向学心に富み、かつ修業の見込みがあること。
- 経済的な理由により、就学困難な事情があること。
- 将来、国家及び社会に役立つと認められる者。

【 貸与額（月額） 】

・大学又は大学院	25,000円
・専門学校又は専修学校、短大	20,000円
・高等学校	15,000円
※奨学金は原則として、6ヶ月分を一括貸与する。	（年2回）

【 返 還 】
- 奨学金の貸与が終了した日から１年を経過した日以後、貸与を受けた年数の３倍の期間内に返還すること。
- 返還方法は年賦、半年賦、月賦、その他の方法による。

【 申込方法 】
- 所定の用紙（在学学校または財団事務局に申請）に必要事項を記載し、必要とされる書類を添付の上、在学学校を通じて申し込む。

申込期間　例年：4月1日～5月末日まで

教育の振興機関に助成金
教育機関等への助成要項

【 助成対象 】
- 学校等の教育機関及び地域社会の教育の振興に関わる機関。

【 助成額 】
- 助成額は１案件につき事業費の50%とし、上限を20万円とする。

【 申請書 】
- 申請書の様式は特に問わないが、下記事項を明記のこと。

1、事業名称・代表者名
2、事業及び費用の概要・収支計画書
3、行政からの推薦書（函館市教育委員会・渡島教育局）

〈例１〉
○○小学校□□部　全国大会（東京）へ出場が決定しましたので、旅費などの一部を助成していただきたく。

〈例2〉
○○中学校□□研究大会開催における費用の一部を助成していただきたく。

〈例3〉
○○教育団体の□□教材の充実を計るための費用の一部を助成していただきたく。

申請は随時受付（但し、理事会の承認後の決定となります。）

■詳しいお問い合わせは当財団事務局（連絡先）へ

〒041－0061 函館市海岸町9－18　電話 0138－84－5396